

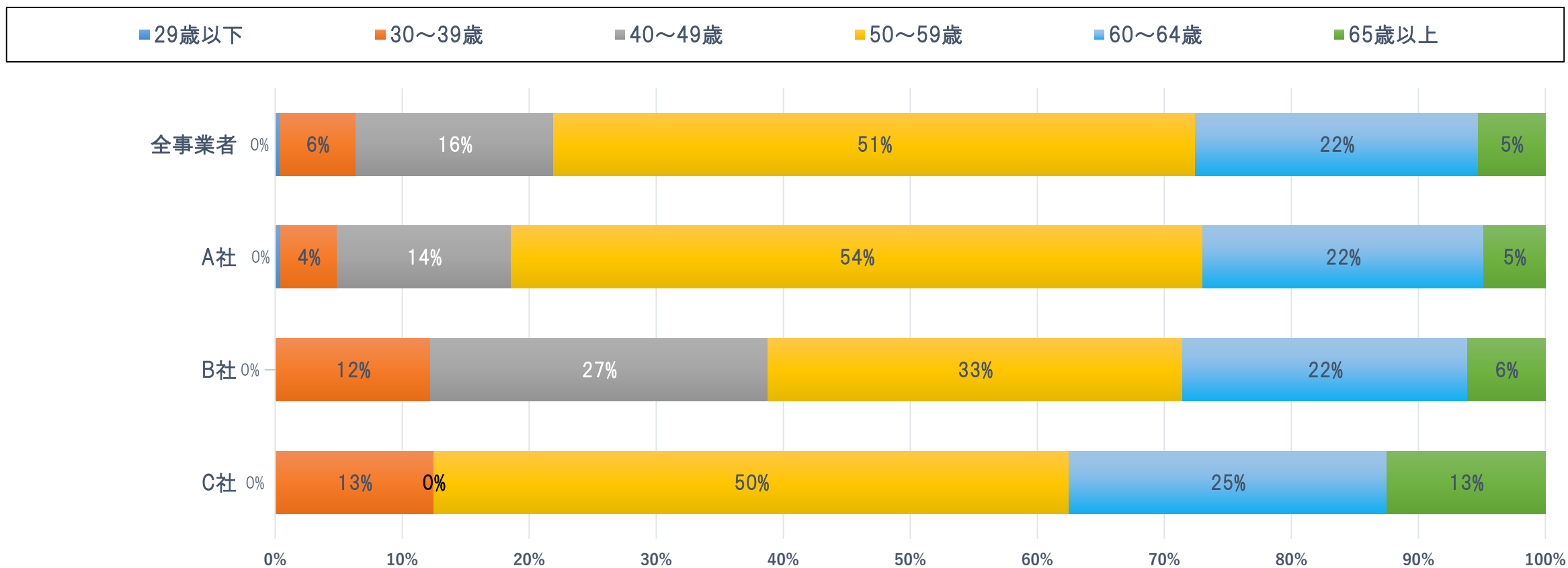
北海道後志地域公共交通計画の目標達成状況

資料4

	評価指標	R3基準値 (計画策定時)	R4実績値 (今回測定)	増 減	R8目標値	達成 状況	備 考
①	広域交通の日あたりの 平日運行便数	236便/日	224便/日	△12便/日	236便/日	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・主に北海道中央バス「赤井川線」の廃止及び「積丹線」の減便によるもの。 ・代替として、R4年4月から赤井川村が「むらバス」を運行、積丹町でも小型バスの運行を検討中。
②	公的資金が投入されて いる広域交通の収支率 (補助金適用前)	37.2%	36.0%	△1.2%	37.2%	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・減便等による費用削減も作用しているが、コロナ禍の一定収束後も一部の観光需要路線を除き、収益の減少が継続している。 ・路線維持のため、継続した協議・検討が必要。
③	後志地域の路線バスの ドライバー数	293人	283人	△10人	293人	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・全事業者において20代のドライバーがほぼ不在。 ・50代が半数、さらに60代以上が30%近くを占めるなど、全体的な高齢化が顕著であり、定年退職を見据えた、若年層のドライバー確保が急務。
④	乗換環境向上のための 運行見直し・ 拠点整備の実施件数	—	0件	※1年に2件ペース とした場合、△2件	10件/5年 (R4~R8)	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の趣旨に鑑み、R4年度の取組実績より、「後志管内の広域（おおむね5市町村以上）にわたる取組」を選出。 ・各市町村の交通拠点における整備計画の進捗により、今後の件数増加が見込まれる。
⑤	広域交通の利用者数 (通常期平日)	3,700人/日 (R2.4月~10月)	4,660人/日 (R4.4月~10月)	+960人/日	3,700人/日 (R8.4月~10月)	↑	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定時の目標値は、新型コロナウイルス感染症の影響が直撃したR2年4月~10月の利用者数から算出しており、現在は回復傾向がみられる。 ・今後の推移を注視し、目標値の見直しを検討。
⑥	関係機関による地域住 民・来訪者の公共交通 利用促進策の実施件数	—	3件	※1年に2件ペース とした場合、+1件	10件/5年 (R4~R8)	↑	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の趣旨に鑑み、R4年度の取組実績より、「後志管内の広域（おおむね5市町村以上）にわたる取組」を選出。 ・バス利用PR動画（道）、特急ニセコ号の運行（JR北海道）、後志地域の乗り放題きっぷ販売（ニセコバス）の3件とした。

【参考資料】後志地域路線バス事業者の年代別ドライバー在籍状況

(令和5年1月1日時点)



基本方針

方針:1 地域住民や来訪者の広域移動を支える広域交通の維持・確保

目標

- ① 中心都市間をつなぐ広域交通ネットワークの確保
- ② 中心都市と周辺町村をつなぐ広域交通ネットワークの確保
- ③ 公共交通の担い手確保による路線の維持

R 4 年度の主な取組 (成果)

■ 北海道後志地域公共交通活性化協議会において、地域住民の生活や地域の観光等を支える交通体系を構築するため、「北海道後志地域公共交通計画」を策定。

■ エリア・路線ごと等の検討体制を確保するため、北海道後志地域公共交通活性化協議会分科会を設置。

■ バスドライバーの人材確保のため、道と共催又は事業者独自の就職活動イベントや職場体験会を開催。道及び市町村においても周知協力を行った。

R 5 年度の主な取組

■ 広域交通ネットワークの役割や確保方針の共通認識を設定

- ・ 北海道後志地域公共交通計画の事業(評価指標)進捗管理を行い、管内の持続可能な公共交通のあり方について検証し、今後の取組を検討する。
- ・ 北海道新幹線並行在来線対策協議会后志ブロック会議や検討会等の場における議論を踏まえながら、並行在来線(小樽～長万部)のバス転換に係る、持続可能な公共交通のあり方について協議を進める。

■ 広域交通の確保に向け、実態に即した検討を行う

- ・ 北海道後志地域公共交通活性化協議会分科会で、路線ごとの利用実態に即した交通体系の構築に向け、運行形態の見直し等の検討を行う。

■ バスドライバーの確保に向けた広報やイベントの実施

- ・ 引き続き、各事業者による求人、職場体験会の開催や、道による就職相談会の実施、それらの道及び市町村による周知協力、動画によるバスの魅力発信等を継続する。
- ・ 地域のバスドライバー志望者自体が少数であることが課題。管外・道外からの移住者や、女性等の潜在的な人材へのアプローチを行う。
- ・ 現在のバスドライバーの高齢化が進み、若年層の確保が急務であることから、北海道バス協会作成の「バス運転手キャリアパスガイド」を活用したPR等を強化する。



評価指標(KPI)	R3基準値	R4実績値	R8目標値
広域交通の日あたりの平日運行便数	236便/日	224便/日	236便/日
公的資金が投入されている広域交通の収支率(補助金適用前)	37.2%	36.0%	37.2%
後志地域の路線バスのドライバー数	293人	283人	293人

基本方針

方針:2 市町村内の生活圏交通と幹線・広域交通の接続性向上、交通拠点の機能強化

目標

④ 幹線交通・広域交通・生活圏交通の接続の円滑化

R4年度の主な取組(成果)

- 各市町村における実情やニーズに応じて、幹線交通と広域・生活圏交通の乗換拠点への機能集約等により、拠点機能を強化することで、利用者の利便性・快適性の向上を図る

- 各市町村単独計画に基づく乗換環境向上や公共交通空白地域対策等、生活圏交通の利便性向上や確保に向けた取組(住民との意見交換会、各町村のデマンドバス運行に係る実証運行)

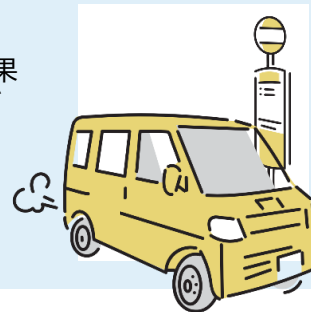
- 新幹線駅を活用したまちづくり4駅合同会議



R5年度の主な取組

■ 乗換環境及び各交通間の接続性・利便性の向上

- ・ バス事業者へ他路線・JRへの乗換を考慮したダイヤ改正を要望【島牧村】
- ・ 利用実態を踏まえたダイヤ設定について、交通事業者と協議【寿都町】
- ・ 「むらバス」の利用実態調査や住民懇談会の結果により、ダイヤ改正及び交通安全確保のためバス停の移設を実施【赤井川村・4月】



- 新幹線駅を活用したまちづくり4駅合同会議(開催予定)

■ 公共交通空白地域対策

- ・ R4年度に引き続き、デマンドバスの実証運行を実施【倶知安町】
- ・ デマンドバスの本運行(10月)に向け、実証運行を実施【古平町・5月～】
- ・ 老人クラブ等との意見交換会の実施及びデマンドバス等の導入を検討する【共和町】
- ・ 北海道中央バス「積丹線」(美国～積丹余別間)廃止に伴う、代替バスの実証運行を実施【積丹町】
- ・ 住民の公共交通ニーズ把握のため、アンケート調査を実施。町内交通に一部デマンド式もしくはタクシー助成の実証実験開始【喜茂別町】
- ・ 古平町及び積丹町の生活圏交通に係る検討に参画し、助言等を行っている【国】

評価指標(KPI)	R3基準値	R4実績値	R8目標値
乗換環境向上のための運行見直し・拠点整備の実施件数	—	0件	10件/5年
広域交通の利用者数(通常期平日)	3,700人/日	4,660人/日	3,700人/日
関係機関による地域住民・来訪者の公共交通利用促進策の実施件数	—	3件	10件/5年



基本方針

方針:3 公共交通の利用促進・持続性の確保

目標

- ⑤ 公共交通の利便性向上と理解醸成による利用促進
- ⑥ 観光資源や大規模イベント等を活かした利用促進

R 4 年度の主な取組 (成果)

- 企画乗車券等のキャンペーン(各交通事業者)、地域の観光資源やイベントと連携した観光誘客と公共交通利用促進の取組(各市町村)、公共交通のスタンプラリー(北海道)等を実施

- 各市町村において、公共交通マップ・総合時刻表の作成、高齢者等へのバス無料乗車券やタクシー助成券の交付、バス事業者と連携した「バス乗り方教室」を実施
- バスの利用促進を目的としたPR動画を作成し、YouTube等のSNSにて発信(小樽市～「おこす OTARU BUS STORY vol.1」、後志総合振興局～「BusLove」シリーズ5本)

R 5 年度の主な取組

■ 公共交通利用促進のための広報活動

- ・ R4年度に引き続き、バス利用促進のためのPR動画を作成し、YouTube等にて発信する【小樽市・後志総合振興局】
- ・ 免許返納者や転入者に対し、公共交通の利用促進チラシを配布【小樽市】
- ・ 「バス乗り方教室」の検討・実施【倶知安町・共和町】
- ・ Googleマップへの「むらバス」掲載【赤井川村】
- ・ バスマップ作成、広報誌への記事掲載【赤井川村】
- ・ 自治体の主催するバス乗り方教室への協力【バス事業者】
- ・ 特急ニセコ号の運行(駅や車内でのイベント)【JR北海道】



■ 公共交通利用に対する意識醸成の機会の創出

- ・ 住民や学生を対象としたワークショップの開催【蘭越町】
- ・ ワークショップ、「むらバス」に乗るバスツアー等を実施【赤井川村】

■ 観光誘客と公共交通利用促進が一体となった取組

- ・ 観光協会と協働で、乗車特典や観光ツアーパッケージを組み込んだ、季節臨時バスを運行【倶知安町・7～8月】
- ・ 余市町からキロロリゾートまでの「むらバス」運行開始【赤井川村】
- ・ 道の駅(R9開業予定)の交通拠点化等、公共交通との連携について検討【共和町】
- ・ 町の観光資源であるワインやウイスキーとともに、観光名所とアイヌ関連施設を巡る観光タクシーを実施【余市町・7月～3月】

評価指標(KPI)	R3基準値	R4実績値	R8目標値
乗換環境向上のための運行見直し・拠点整備の実施件数	—	0件	10件/5年
関係機関による地域住民・来訪者の公共交通利用促進策の実施件数	—	3件	10件/5年